



文部科学省IB教育推進コンソーシアム IB教育アドバイザー 好事例共有シリーズ vol.16



2026年1月9日
静岡県教育委員会 高校教育課
小粥 康之

静岡県教委による、定時制高校へのIB導入

静岡県教育委員会は県立高校へのIB教育の導入を決定し、県立ふじのくに国際高校(定時制)へのIB導入を目指して準備を進めてきましたが、2025年8月、DPの認定を受けることができました。

ふじのくに国際高校は2024年4月に開校した新設校で、平日の朝8時45分から午後8時45分まで12時間の授業が開設されており、生徒は大学生のように各自の希望する時間帯の授業を自由に選択し、卒業に必要な単位を取得する単位制の定時制高校です。国内のIB校は増加していますが、定時制高校への導入は日本初となります。

ここで一つ報告です。単位制定時制は全日制高校と比べて多様な時間割が可能なため、文部科学省の学習指導要領(高校卒業資格取得)とIB機構が求めるDP科目履修(DP資格取得)を両立しやすいという利点があります。定時制高校の関係者の皆様には、ぜひ参考にしていただければと思います。

1 IB教育の効果とその把握方法

ふじのくに国際高校のIB教育は来年開始ですが、IB一期生となる今年度入学生には「IBを受けるために入学した」と発言する生徒もあり、IB教育が高校の魅力化・特色化に大きく影響することは間違いありません。なお、IB教育そのものの効果や把握方法については、今後改めて確認・検討していきます。

2 IB教育の効果の波及(他校や地域へ)

学校数が多い公立高校では、教職員が人事異動で他校に赴任します。県教育委員会でも、IB教育を体験した教職員が他校に異動し、その学校の教職員や生徒にIBの教育効果を波及することを期待しています。

3 教員養成・確保の対応

IB教員養成・確保に向けた、静岡県教育委員会の主な取組は以下の2点です。

①IB先進校への派遣

静岡県では、教員を1年間、他県のIB先進校に派遣しています。彼らは派遣先でIB教員とチームティーチングでIBの授業を担当するなど、IB教育を体験しながら指導方法や運営方法を学んでいます。

2023年度に神奈川県立横浜国際高校に派遣された英語科教員は、帰任後、ふじのくに国際高校のDPコーディネーターとしてIB導入の中心的な役割を果たしています。2024年度は数学科教員を同じ横浜国際高校に、2025年度は地歴公民科教員を東京学芸大学附属国際中等教育学校に、それぞれ派遣しています。

②静岡大学との連携

静岡県教育委員会は2023年、国立大学法人静岡大学と連携協定を締結しました。協定では、ふじのくに国際高校生と静岡大学の学生・教員や大学附属中学生との連携のほか、静岡大学におけるIB教員養成課程設置の検討を要望しています。

今後、静岡大学にIB教員養成課程が設置された場合、IB教員養成課程学生の教育実習をふじのくに国際高校で受入れるとともに、静岡県教員採用試験において他大学も含めたIB教員資格者への加点等の優遇措置について、検討することとしています。

4 地域との連携に係る取組

静岡県はIB導入方針を決定した後、県内のIB認定校と認定を目指す私立高校3校と担当者会を定期的に開催し、課題の共有や今後のIB教育の普及に向けて取り組んでいます。担当者会では、静岡県民に広くIB教育を広報するためのIBシンポジウムを、2023年に島田市、2024年に静岡市で開催しました。今後も、公立私立の枠を越えて、IB教育を拡大するための取組を進めていきます。